

No.	7	分類	3-(2)-ア	資料名	いつもの場所から	学年	2年	領域	総合的な学習の時間
-----	---	----	---------	-----	----------	----	----	----	-----------

1 ねらい

- 在日外国人の置かれている状況を知り、その悩みや願いに丁寧に耳を傾け、多文化共生社会を実現していこうとする意欲を高める。

2 趣旨

- 外国人生徒やその家族が、周囲の日本人社会にうまく溶け込めず、また文化の違いから誤解を受け、孤立するケースが増えている。しかし、一人の理解者の存在が希望を与え、その問題の解決を生むことがあることを理解させたい。
- 外国人のアイデンティティと日本の社会制度に目を向けながら、信頼関係をキーワードに多文化共生を考えさせたい。

3 配慮事項

- 外国人生徒が在籍している場合は、その家庭状況や日本人に対する思いをあらかじめ把握しておく。また、その生徒に対する日本人生徒の感情もあらかじめ把握したうえで授業をすすめる。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 資料を読む。	
2 「私」のタチアネに対する感情の変化を捉える。 ○「私」のタチアネに対する気持ちを表している部分を抜き出し気持ちの変化を追う。	・最初は興味があって多くの人が関わりをもつが、やがてその意識が薄れていくことが他のボランティアにおいてもみられることを認識させたい。
「私」のタチアネに対する気持ちは、なぜ変化したのか、考えましょう。	
・言葉をなかなか覚え、成果がでないの で教えがいがない。 ・親切に教えているのに、日本語をしゃべ ろうとしないのは、自分たちへの感謝の 気持ちがないからだ。	・外国人との共生において、言葉が大きな 壁になっていることに気づかせる。 ・異なる言語や価値観をもつ外国人の気持 ちを認めることができず、トラブルが生 じていることに気づかせる。 ・日本語を覚えようとしな背景には、自 国の言葉や文化に対する誇りがあること を認識させたい。
3 タチアネが「私」に「日本語を教えて。」 と言った理由について話し合う。	
タチアネが「日本語を教えて。」と言ったのはなぜでしょう。	
・事実や自分の思いを伝えたいと思った。 ・日本語を覚えることが、トラブルのない 人間関係を築くことになると思った。 ・「私」とコミュニケーションをとりたか った。	・誤解を解いて、もう一度仲良くなりたい というタチアネの気持ちを理解させる。 ・外国人には、日本語を理解し、よりよい 人間関係を築きたいという思いがあるこ とに気づかせる。
4 管理人さんの誤解が解けた後の二人の気 持ちについて話し合う。	
管理人さんの誤解が解けたことが、二人にとって「どうでもよかった。」のはなぜでしょう。	
・二人の心が再び結びついたことがうれし かった。	・互いの信頼関係の構築は多文化共生にと って必要不可欠であり、目的とも言える ことを認識させたい。

5 参考

- 「外国人児童生徒にかかわる教育指針」(2000(平成12)年 兵庫県教育委員会)